



議会だより

あさぎり

No.36
H 25.2.7 発行

あさぎり町議会 [検索](#)

議会報告会の開催

平成25年2月21日(木)
午後6時30分 ポッポ館(2F)

町民の皆様には日頃の議会の活動状況を知っていただき、皆様のご意見をお聴かせいただくために議会報告会を開催します。どなたでもお気軽にご参加下さい。

◆お問い合わせ

あさぎり町議会事務局 ☎ 47 - 0312
syoki-gikai@town.asagiri.lg.jp

主な内容

一般会計補正予算

原案通り可決 2～3P

15人が町政を質す 4～11P



あさぎり町少年消防クラブ(上)
あさぎり町幼年消防クラブ(下)

3,057万3千円を追加し

総額 101億5,529万円

第4回定例会が、12月10日に開会し、条例改正・一般会計補正予算・特別会計補正予算が提案され、いずれも原案通り可決され、併せて百条委員会の報告及び決議文も採択されました。また、一般質問には、15人全員（議長を除く）が登壇し、町政を質しました。

審議内容の抜粋

あさぎり町環境美化条例の一部を改正する条例の制定についての質疑

問 「犬の糞を放置してはならない」と飼主の責務が明記されているが、住民に対する啓発と方策は。
答 広報等で啓発に努めるが、住民からの情報があれば飼主にも指導をしたい。
問 この条例に反した場合罰則があるのか。
答 罰金等の罰則はないが、勧告をしても正当な理由なくして従わない場合には、その氏名と内容を公表する。

一般会計補正予算についての質疑

問 地方バスに運行補助金の増額があるが、この補助金の近年の推移は。
答 近年赤字幅が大きくなっているため、人吉球磨の地域公共交通会議の中で、路線の見直し等ができないか各町村と連携を図っている。

水道事業特別会計についての質疑

問 貸借対照表の資本の部で「受贈財産の評価額」とはどのような物の評価額なのか。
答 下水道の敷設工事時に併せて下水道管を交換した。工事費は、下水道会計で計上している。

谷水川浚渫工事の調査に関する「百条委員会」の決議案（百条委員会委員長に対する質疑）

問 業者に対する処分案については重すぎるのではないかと。
答 （委員長）厳しいかもしれないが、町の指示通り産廃処理されていないので指摘をしている。
問 職員の懲戒がどの程度なのか判断が難しいと思うが。
答 （委員長）この内容については執行部が判断される事だが、書類の不備や書類の精査がなされていないし、職員の公金を扱うという意識が薄れていたのではないかと思う。

討論

反 今回の件は、職員の指示が業者との間に誤解を生じた事が原因と考えるが、職員は精一杯の仕事をしていると調査報告書から伺える。よって反対する。

賛 長期間に亘って審議された決議文であり内容も妥当と考えるから賛成する。
反 先日の報告書を以て調査の目的は達成していると思うから、この決議文には反対する。

谷水川浚渫工事に関する決議

百条委員会は、述べ十日間にわたり関係者の証言や保管書類等を基に調査した結果、産廃物の不法な埋め戻し、竣工届等の偽造、工事関係書類の不備と町側の精査不足、に問題があると判断する。町側に対して、①請負業者は、産廃物処理法違反、私文書偽造、詐欺の疑いがあるため、適切な判断を下すこと。②職員には、地方公務員法に基づき対処すること。③請負業者に、法律に基づき処理するよう勧告すること。④指名業者選定は、経営実態も十分に加味すること。⑤町長は、自らの責任を明確にすること。以上を求める。

条例の制定及び改正

- ※政治倫理条例の一部を改正する条例の制定
球磨林材工業株式会社の解散により「球磨林材工業株式会社」を削るもの。
- ※個人情報保護条例の一部を改正
本人以外の者に保有個人情報を提供することが明らかに本人の利益となると認められること。
- ※環境美化条例の一部を改正
「人吉球磨地域の市町村が一体となって廃棄物等の散乱を規制し、清潔で美しい町づくりを推進」するため本条例の一部を改正する必要がある。
- ※新町建設計画の一部変更について
新町建設計画の計画期間及びそれに付随する項目について変更するものです（合併特例債が五年間延長されたことにより）

◆第4回定例会 議案表決一覧表（抜粋）

議案名	議員名	加賀山	橋本	久保	小出	森岡	徳永	豊永	山口	永井	皆越	小見田	奥田	田原	溝口	久保田
一般会計補正予算		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川辺川総合土地改良事業組合の解散について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
委員長報告(百条委員会報告)		○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×
谷水川浚渫工事に関する決議		○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	×
監査請求に関する決議(下水道使用料賦課もれに関する事項)		○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×

15人が登壇

議員が町の執行部に対してさまざまな角度から町政について質問する。

- 4 P 医療費削減のための健康づくりは 加賀山 瑞津子 議員
- 地域づくりサポーターの設置は 山口 和幸 議員

- 5 P アンテナショップの売り上げは 皆越 てる子 議員
- 政権交代後の政策の変動は 永井 英治 議員
- 6 P 薬草で産業活性化を 久保田 久男 議員
- 今後の伝統文化の保存と継承は 橋本 誠 議員

- 7 P 森園カントリーパーク周辺の環境整備は 奥田 公人 議員
- 新しい水源の活用策は 小見田 和行 議員
- 8 P 目的成果の上まらないものは廃止しメリハリの効いた予算編成を 徳永 正道 議員
- 山の幸開発事業業務委託料1千万の回収は 豊永 喜一 議員

- 9 P 第二次総合計画基本構想は 森岡 勉 議員
- 消防広域化協議会離脱後の町の方向性は 田原 健一 議員
- 10 P ふるさと振興社を民間委託に 溝口 峰男 議員
- 営農支援センター設立は 小出 高明 議員
- 11 P 人材の活かし方は 久保 尚人 議員



皆越 てる子 議員

◎木質バイオマスについて

皆越 十一月二十七日ポッポ一館で免田地区の意見交換会があり、住民の方より、アンテナショップの毎月の売り上げは幾らぐらいかという質問の答弁で、町長は三十万円から四十万円位だと答弁されたが、正確な数字をここで確認する必要があると思う。オープン六カ月の状況をお示し頂きたい。
商工観光課長 販路拡大事業売上収支実績一覧表のとおりの実績である。残り四ヶ月分の予想は、アンテナ+ネット売上高で七六〇万円は見込まれる。職員の動員を行い、チラシの配布、集客の呼び込み、八月二日より十二月迄毎月第一木曜、金曜日にイベントを行い売上拡大を図っている。

販路拡大事業売上収支実績一覧表 (単位：円)

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	小計
売上高 (計画)	1,987,271	2,829,541	2,843,401	2,884,586	2,936,561	3,860,064	17,341,424
アンテナ + ネット売上高 (実績)	1,135,829	587,147	622,840	608,589	780,642	700,702	4,435,749
売上差引 (実績-計画)	-851,442	-2,242,394	-2,220,561	-2,275,997	-2,155,919	-3,159,362	-12,905,675

問 アンテナショップの売り上げは ネット販売と並行していく

商工観光課長

問 医療費削減のための健康づくりは

保健環境課長

予防医療が大きな鍵になる



加賀山 瑞津子 議員

加賀山 医療費や介護費用の増大が深刻化しているが、町としての健康づくりについて。
保健環境課長 「あさぎり健康プラン21」を柱に「生活習慣病対策」を重点に、今後は住民組織や人材育成・「乳幼児から若い世代の良いい生活習慣の定着を図る」こと。「元氣な高齢者を増やす取り組み」などを課題に進めていきたい。

◎十周年事業に伴う植樹計画は

加賀山 町としては最小限の備蓄しか出来ていない。「一人一人が自分の身は自分で守る」という「危機管理の周知徹底」を町民に啓発していただきたい。又、自主防災組織の強化と共に非常時の対応を中心に活動する女性消防隊の組織化をぜひ進めて欲しい。



須恵地区の自主防災訓練

加賀山 自主防災組織の活動支援・防災資材等の充実・避難生活備蓄品の整備などの防災体制と女性消防隊の組織化について。
総務課長 町の諸備蓄の主なものとして水十二トン・乾パン・毛布等がある。

問 地域づくりサポーターの設置は

町長 設置を考える



山口 和幸 議員

山口 集落や行政区などの地域の果たす役割は、住民自治をはじめ、福祉・環境・防災などの場面で、年々重要性を増している。しかし、少子高齢化、過疎化が進展していることに伴い、かつてに比べ集落を支える仕組みが低下しており、地域の活力を向上させるために職員を各行政区に配置しての地域づくりサポーターの設置は考えられないか。
町長 地域には住民が誇れる地域資源があり、地域の住民がお互いに助け合う等の取り組みがますます重要となってくるので、サポーターの設置を考えてみたい。

才園古墳周辺整備は

山口 遙か中国で作られ、中国との交易を明かすロマンあふれる、国の重要文化財に指定されている、金メッキされた全国にも数例しかないゆう金獣帯鏡等が出土した才園古墳周辺整備はどのようなように考えるか。
町長 熊本県史跡才園古墳保存整備基本構想に基づき、関係各課集まり近日中に現地調査をしてみたい。



才園古墳

問 政権交代後の政策の変動は

農林振興課長 現段階では変動はない



永井 英治 議員

永井 現在(十二月十日)衆議院議員総選挙の真最中である。選挙の結果次第であるが、政権が代われば「農業者戸別所得補償制度」も変わるのではないかという心配がある。
農林振興課長 現段階では、二十五年度の国の戸別所得補償予算の概算要求額は二十四年度と同額であるので、政権の状況次第では難しい部分があるのだが今の段階では二十四年度と変わらない状況である。

県立高校再編に対する取り組みは

永井 県は二十七年までに球磨郡内の県立高校三校を二校に統廃合の意向である。南陵高校も統廃合の対象となっているがその存続に向けた取り組みは。
町長 郡内の町村長は二校に再編される認識はないので、残せる手段があるのではと県に訴えている。しかし、南陵高校の活性化とも併せて備えは具体的にやっつけなければならぬと思っている。



南陵高校



久保田 久男 議員

問 薬草で産業活性化を

町長 安全、「健康」はキーワードになる

久保田 町の農業は、何でもできるという恵まれた環境にあり、これとあって重点品目がないのが最大の悩みではないか。近年、薬草栽培が導入された機会に町としての農産物生産における基本姿勢を示すべきではないか。つまり、「薬草」「健康」というキーワードで全農産物をあざざりブランド化することはできないか。



薬草三島柴胡

町長 現在、中球磨、人吉、山江の三森林組合で合併の協議を進めている。

その他の質問

◎区の再編（統合）について

・再編の進捗状況等

◎地域審議会の今後のあり方について

・地域おこし、協働の町づくり

◎行政座談会のあり方について。

問 今後の伝統文化の保存と継承は 催事などの披露すべき機会をつくっていききたい

教育課長



橋本 誠 議員

橋本 今後の伝統文化の保存と継承はどう考えるか。

町長 伝統芸能の各種団体を集めて話しあいを持ち今後の対策を考えていきたい。

重点的に残すべきだというものを検討していただきだと思ふ。

橋本 郷土芸能の保存、継承や後継者育成の支援を行っているが、過疎化や少子高齢化の進行とともに後継者不足などの問題から保存継承が厳しく

なっている。今後の支援策は。

教育課長 催事などの披露すべき機会をつくっていききたい。

補助金に関しては貴重な財源なので当団体に

は説明して補助を受けるようにして

もらっているが厳しい財政の中で増額は簡単にはいかないが町と協議し、努めていきたい。

橋本 後継者の育成と発表の場を設け地域の実態を把握したうえでよりよい検討をお願いしたい。各種団体を集めて話しあいを持ち今後の対策

を考えてもらいたい。

その他の質問

◎子供の体力とスポーツの推進は。



柳別府太鼓踊り保存会

問 森園カントリーパーク周辺の環境整備は

農業委員会事務局長

売買とか借上げとかは非常に難しい

奥田 森園カントリーパークは竣工以来約十年を迎えようとしており、サッカー競技を主にグラウンドゴルフ等に利用されているが、周辺環境を整備する必要があるのではないか。駐車場入り口

北側に、個人所有の水田約五アールと約十アール程の二筆がある。数年来、耕作放棄地としてそのままの状態になっている。非常に景観が損なわれており、どうにかしてほしい。

事務局長 お尋ねの土地については権利関係が設定されており、売買とか借上げとかは非常に難しい。

町長 森園カ

ントリーパークは、天然芝という点で、子供達のサッカーを中心年間一万人を超える利用があつて、町の活性化にはかなり貢献している。農業委員会



奥田 公人 議員

農業委員会



森園カントリーパーク周辺

問 新しい水源の活用策は

上下水道課長

水道事業基本計画見直し時に、公式に記載する事も可能



小見田 和行 議員

副町長 特に岡原地区の維持費が高く、温めると湯沸器等への白い結晶の付着など、住民の要望もあ



小見田 水源調査の結果、岡原、深田地区から水質良好、日量千トン以上の水源が発見された。住民の期待も高まっているが、今後、どの様に活用されるつもりか伺いたい。

上下水道課長

平成二十八年に上水道、簡易水道事業統合に向



岡原試掘現場

け、水道事業計画を見直さなければならぬ。その際岡原、深田地区も優先順位をつけ、その計画に搭載し、整備できたらと思う。

小見田 既利用する予定も無く、基本計画に

載っていない地域に一本

五百万円もかけ試掘をした理由は。

り新しい水源を求める必要を感じており、新しい基本計画での優先順位をどう位置づけるかの根拠と思ひ試掘を行った。

問 目的成果が上がらないものは廃止し メリハリの効いた予算編成を

町長 その様な方向で予算編成をして参りたい



徳永 正道 議員

徳永 予算編成をするにあたり少ない財源を総花的にばらまいていたのでは重点的な事業展開はできないのではないかと。地方自治法第二条第十四項では、最小の経費で最大の効果を上げるようにしなければならぬと謳っている。その為には、現在展開している事業の中で目的成果が上がっていないもの、費用対効果の上がないもの、費用対効果については町長の決断と英断をもって廃止をすべきである。例えば、年間約三千万の赤字を出している岡原の温泉施設、福岡に展開しているアンテナショップ十一月の実績によ



温華乃遥温泉

りますと三百十五万円の赤字、こういう事を続けていけば益々財政はひっ迫していく。予算の配分というのはメリハリの効いたものでなければ税の生かした使い方につながるのではないかと。町長 今、予算編成に向けて事前の内部の確認をしながら進めている所。しっかりとメリハリをつけた予算編成をして参りたい。

問 山の幸開発事業業務委託料 1千万円の回収は

町長 可能な限り挽回する努力をしたい



豊永 喜一 議員

豊永 ふるさと雇用再生特別基金事業及び緊急雇用創出基金事業の成果と課題は。

商工観光課長 大きな成果としては、三年間で一八二名の雇用の機会が得られたこと。課題としては、事業終了後の継続の雇用のあり方である。

豊永 山の幸開発事業について、八月の本会議において議会は業務委託をやるべきという決議をしたが、申し入れ事項は履行すべき。業務委託料一千万円の回収はどうするのか。

町長 可能な限り挽回する努力をしないとイケない。賃借料等関係で徐々に返していく。



大豆中耕作業 (株)アグリトラストサービス

豊永 青年就農給付金事業の取り組み状況は。
農林振興課長 平成二十四年度の該当者数は十五名であり、対象者は二十七名である。
豊永 殆どの農家が親元就農である。取り組みたくても要件等で厳しいところもある。少しでも該当者となるよう努力をして貰いたい。

問 第二次総合計画基本構想は

町長 地域毎のリーダー育成につとめる

森岡 人口構造の変化に伴い、町の人口減少に歯止めがきかず、平成三十四年度の人口数は一万四千九百人余の予想であり、近い将来に、限界集落が発現してくることを想定し、格差のない地域づくり、又、地域力づくりに早急に取り組むべきではないか。

見据えて、中期の財政計画に充てていくという基本姿勢で行っていきます。
その他の質問
◎農村の自然エネルギー資源活用について
◎法令等遵守態勢の体制確立について

町長 国の経済はさまざまに変化し、地方は厳しい状況にあるなか、一定規模の収入ある仕組みづくりと、集落の支え合い、ふれあいの場を継続し、生活環境づくりにつとめて参ります。それは、地域のリーダーを育成することが大切で必要と考えます。
森岡 これに伴う、中、長期的な予算編成は。
副町長 地方財政計画の厳しい部分を

まとめ知識

- ※1 準限界集落
55歳以上人口比率が50%を超えている集落
- ※2 限界集落
65歳以上の人口比率が50%を超えている集落。



田原 健一 議員

問 消防広域化協議会離脱後の 町の方向性は

町長 人吉下球磨との協議の場を求めていく

田原 消防広域化協議会から離脱した理由と町民への周知は。

町長 四消防本部で発足した協議会であったが、芦北水俣が離脱したことにより、三消防本部だけの協議継続は消防力の強化から考えた時に当初の目的から逸脱するのではないかと判断から、正副組合長会で決定した。このことは町の広報紙二月号で町民に周知する。

田原 上西、免田西、深田西地区への救急車到着時間の短縮が課題となるが、町としての今後の方向性は。

町長 広域化に参加しないのであれば、西分署建設、人吉下球磨との協議等改善策を条件付記している。人吉下球磨と連携して地域の課題に対応できるように協議の場を求めていきたい。

田原 人吉球磨は広域行政組合で八つの事務を共同処理している。消防行政も一緒にやっていったらどうか。



上球磨消防署



溝口 峰男 議員

問 ふるさと振興社を民間委託に

町長 検討する時期に来ていると思う

溝口 ふるさと振興社は今日迄、町長が社長を務めてきたが、激務の中で商売の指示をするにはデメリットが大きい。産業の活性化を図るうえにおいては、民間に委託した方がより効果が出ると思う。

町長 ふるさと振興社の役割は重要である。その中で経営については、民間に委託する時期に来ていると思う。

溝口 ふるさと振興社のあり方を協議する会を設けるべきではないか。

町長 その様な方向で進めていきたい。

溝口 六次産業振興のため設備資金五千万円を商工会へ支出したが、これは農家のためにも大きな成果をもたらす。一方商品化されたものの販売には、これまで携わって来た人々なしでは拡大できない。

経験とノウハウを持ったものの雇用継続を基金を活用してでも図るべきではないか。

町長 基金の活用策を検討する中で雇用継続も一月中には結論を出したい。



ふるさと振興社

問 営農支援センター設立は

町長 あるべき姿、三月頃までには出したい



小出 高明 議員

小出 営農支援センター設立について現時点での支援構想は。

町長 様々な所から、期待が高まっていると感じているが、位置付けをしっかりと置いておく必要がある。アンケートを行い進めている。

小出 スピード感の遅さを感じるが。

町長 より効果の高いものにする為、他の提案も含め、開設・運営に向けてじっくり取り組みたい。三月頃までには、構想をまとめて行きたい。

小出 関連して、もっと親元就農が増える様な取り組みも必要では。

町長 あさぎり町という農産物のブランド化を進め、知名度を上げて行く事も必要だと思う。

小出 一次産業が活発になる為にも、

やる気が出る様な、こだわりのある作物を作り、産地化し、守りの農業から攻めの農業へ進めて行くべきではないかと思う。

その他の質問

◎鳥獣被害防止対策について
◎上小周辺の管理について



ブロッコリー栽培状況

問 人材の活かし方は

町長 やる気を引き出す仕組みづくりを原点に帰って行きたい

久保 現在、適正職員数の一・三倍にあたる二六六人の職員が業務にあたっているが、町民からは住民サービスに満足しているという答えが聞こえない。原因は何であると思うか。

町長 現場主義、素早い対応、笑顔の窓口対応を指導しているが浸透していないと感じる。

総務課長 町民の問いかけに対し、キャッチボールの速度が遅いと反省している。

久保 マネジメントをしつかりとやって、全員をやる気の集団に変えていくのがリーダーの仕事である。町長には「物を作る前に人を作る」という松下幸之助の理念を忘れないでほしい。

町長 軸(理念)になるものがあつたと感じている。今一度、やる気を引き出す仕組みづくりを原点に帰って行きたい。

久保 それが皆さん方リーダーの仕事である。切磋琢磨して頑張っていたください。



久保 尚人 議員

リーダーシップに関する書籍の紹介 (Amazon.co.jp のレビュー評価より抜粋)

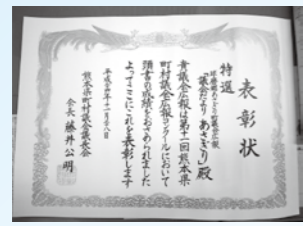
人を動かす	デール カーネギー (著)
「ついでに」と思われるリーダーになる51の考え方	岩田 松雄 (著)
リーダーになる人に知っておいてほしいこと	松下 幸之助 (著) 松下政経塾 (編集)
リーダーになる人の たった1つの習慣	福島 正伸 (著)
最高のリーダー、マネージャーがいつも考えている たったひとつのこと	マーカス バッキンガム (著)

祝 特選 「あさぎり」が受賞!!

県内の町村議会が発行する広報誌の出来栄を競うコンクールで、議会だより「あさぎり」が、最高賞の特選を受賞しました。今回、広報誌を発行している27議会のうち26議会が応募した中での特選受賞です。

11月28日、熊本県市町村自治会館にて、表彰式と、広報研修

会があり、審査委員の越地伸一郎・熊本NIE専門委員に「メリハリの効いた見出し、すっきりとしたレイアウト、分かりやすい説明は住民目線でよい」と評価して頂きました。去年は、全国町村議員広報研修にも参加し研鑽しました。今後も、より見やすく、分かりやすい広報誌作りに努めて参りますので宜しくお願い致します。



町は四月に十歳の誕生日

議会議長 橋爪 和彦

新年明けましておめでとうございます。昨年改選があり、九人が議会を去られ七人が新しく仲間入りしました。町民の皆様からは、変わらぬ温かいご助言や厳しいご意見を頂き誠にありがとうございます。今年も、議員一同、住民の代表であることを肝に銘じて、皆様のご意見を拝聴しながら精一杯努める所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本年四月一日に本町は十歳の誕生日を迎えます。あさぎり中学校も誕生し、あさぎり町民としての自覚や一体感もようやく根付いてきたように感じますが、生産年齢人口と年少人口が大幅に減り、農・林・商・工すべての生産額が減少しています。周辺部の寂れも目立ち始めています。町行政も対策を執っています。直ぐに目立った効果をあげることは難しく、これからも、産業の活性化と雇用や定住人口の増加に向け知恵を絞り、有効な投資を続けていく必要があると思います。

しかし、合併時に五町村が持ち寄った巨額の負債は減らないまま、満額の財政優遇は来年度で終わります。企画財政課の試算では、仮に現在の財政運営を継続したら、二十八年度から実質は単年度赤字に転落し、遠からず破綻が待ち受けています。執行部には、全ての分野で財政改革を進めながらも、メリハリの効いた投資は続けていくという非常に難しい舵取りが求められます。議会には、最終議決機関としての大きな責任があり、チェック機能ばかりでなく、前向きで有効な政策提案能力が試される年でもあります。それが本町十歳の誕生日の現実だと考えています。

最後に、町民の皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



12月定例会初日(平成24年12月10日)

一部事務組合及び常任委員会報告

人吉球磨広域行政組合議会

平成24年第4回人吉球磨広域行政組合定例会が、11月23日午前10時より、人吉球磨グリーンプラザ、大会議室に於いて開会されました。

湯前町議会議員の任期満了により、組合議員として選出された金子光喜・黒木喜巳男議員の紹介がありました。その後、議長も任期満了に伴い欠員の為、議長選挙が行われ、指名推薦の方法により、瀬崎哲弘議員が第15代議長に当選されました。又議会運営委員2名も欠員となりましたので高橋裕子議員・米本宗徳議員の補充がありました。平成23年度歳入歳出決算認定については税所隆則委員長報告の通り、全員異議なく原案の通り認定されました。又第3次人吉球磨ふるさと市町村圏計画基本構想の策定については、溝口峰男委員長報告の通り、全員異議なく、原案の通り可決しました。

球磨郡公立多良木病院 企業団議会

平成24年第5回定例会は12月3日に召集され、会期1日で開催されました。識見者代表監査委員の選任同意1件、医療行為の結果に対する慰謝料等を定めるこ

上球磨消防組合議会

平成24年第2回臨時議会在12月7日午後15時30分より上球磨消防署にて開催されました。今回は湯前町選出の森山議員が新しく2番議席に指定され、続いて水上村選出の小野議員を議長推薦により監査委員に選出されました。平成24年度一般会計補正予算について歳入歳出それぞれ658千円増加し歳入歳出予算の総額5億9694万3千円となりました。一般質問では永井、橋本両議員が庁舎耐震問題(建設)、と西分駐所の問題を質問しました。城南地区消防広域化が白紙になった現在では、救急問題で人吉下球磨消防署との応援協定の強化をはかりたいと松本組合長の答弁があり、他報告1、承認2、議案2が原案の通り可決し閉会しました。

川辺川総合土地改良 事業組合議会

第4回川辺川総合土地改良事業組合定例会は、11月26日午前10時より組合会議室にて会期一日にて開催されました。組合長の諸般の報告において、今後の

組合運営について、事業休止状態が続いていること、職員の退職等に伴い、事業継続が困難と判断し、今年度末をもって解散することとしました。今後は、協議会方式に替えることとし、事業については引き続き国に、国営事業として、事業継続を要望していく(新聞等にて報道)との報告がありました。

続いて、平成24年度一般会計負担金総額の補正と、平成24年度一般会計補正予算額3千3百万円の2議案いずれも原案通り承認されました。引き続き、久保田悦子・横山良継各氏の2議員の一般質問があり執行部に考えを質しました。最後に、閉会中の継続審査及び調査について承認し閉会しました。

総務文教常任委員会

去る10月5日午後1時30分より、本庁舎会議室白髪岳において、基本構想基本計画策定についての説明を受けました。10月8日から10月9日迄、行政に頼らない地域づくりに取り組んでおられる、鹿児島県鹿屋市柳谷、通称「やねだん」に視察研修を行いました。

建設経済常任委員会

平成24年9月定例会で、地方自治法100条第1項に基づく「谷水川浚渫工事に関する調査」が、当委員会に委任されたので、9月27日、12月7日迄、10回の委員会を開催しました。結果は別途記

載します。

10月12日、葉草(ミシマサイコ)生産組合の役員から現況について意見聴取を行い、今後の組合の在り方について意見交換をしました。担当課に次の事を意見具申をしました。①生産組合と管理部会が別々に活動しているが、今後は一体化した体制の中で活動することが生産量の拡大、品質向上につながるため、その様な方向に指導すること ②町からの委託料は事業内容からみてこのましくないので、今後は補助金として支出すること。

11月8日、9日 林業活性化協議会のメンバーと宮崎県日南市「飢肥杉だらけのまちづくり」「森林セラピー基地」飢肥杉モデル住宅建設の取り組みを視察しました。あさぎり町には、約3642畝の町有林・財産区有林があるが、地産地消の取り組みが遅れています。ようやく木に携わる若手メンバーが、トータル林業に挑戦を始めたので町ぐるみで支援していくことが活性化につながります。まずは、新月伐採した木材を使用したモデル住宅が一日も早く完成することを願います。

11月30日、旧須恵中学校跡地に計画されている町営住宅について説明を受けました。昨年3月議会で3千435万円の造成費を認めたが、その後の説明で計画が何度も変更されるなど一貫性がないので事業がストップしています。しっかりとした全体計画、予算、そして入居希望状況等を早急に示すように指示をしました。

議員全体研修報告

生産組合の自立にむけた取り組みと、山間部の自治体の独自性のある運営の視察研修

平成24年11月19日から21日迄の3日間、全議員で先進地の現地・事例・取組の視察研修を実施しました。

高知県越知町農事組合法人「ヒューマンライフ土佐」は、僅かな山間部の土地利用、多様な自然条件を活かし昭和60年初めより薬草との関わりが始まり、平成2年には農事組合法人を設立。持続可能な生薬栽培(町内の栽培農家と漢方薬品会社ツムラとの契約栽培)の取り組みがなされています。補助金に頼らず、越知町の農家の生き残りをかけた取り組みであり、その意気込みが感じられました。あさぎり町においては、水稲栽培・畜産・果樹園芸等多様な農業ができることから越知町のように三島柴胡をはじめとする薬草栽培に特化できるかは疑問であるがいずれにしても農業者の高齢化や遊休地の解消を考えるとあさぎり町でもツムラから信頼される薬草供給地になって栽培が増え、農家の安定収入、遊休地の解消につながればと願っています。

高知県梶原町(人口3千8百人程度、総面積91%が山林の町)「人と自然が共生し輝く梶原構想」の下「健康文化の里づくり」を掲げ、梶原病院と保健福祉支援センターそして地域が一体となり保健・医療・福祉・介護サービス間の隙間を少なくし、きめ細かな支援が可能となっています。健康づくりへの関心が検診受診率の増加、医療費の抑制効果につながっているものと思われます。梶原町は小さな町ゆえ、行政・医療機関・地域そして何よりも町民同士の絆が強く、町民個々に事業内容が浸透し町民が支えあうことによって事業の成果が現れていると思います。又、自然エネルギーの取り組みにつ

いて「共生と循環」の町づくりを掲げ、地域にあるエネルギーの賦存量調査に基づき、風・水・光・木からの再生エネルギーの開発に取り組まれています。あさぎり町においては太陽光発電・木質バイオマスによる再生エネルギーの取り組みを推進していけば良いのではと痛感しました。ぜひ職員各位へも研修していただき、共に研鑽を重ね町の活性化に繋げていきたいと思ひます。



農事組合法人「ヒューマンライフ土佐」

厚生常任委員会視察研修報告

厚生常任委員会研修は、平成二十四年十一月八日から十一月九日の一泊二日で行われました。

初日は、議会事務局より土肥参事、厚生常任委員会五名、保健環境課より、小野主幹と丸山主事の計八名で参加しました。午前十時に鹿児島県曾於郡大崎町、大崎町有機センターを研修しました。この施設は、大崎町より、そおりサイクルセンターが委託を受け、生ごみ処理の営業を行っています。平成十六年四月より創業開始し、生ごみ(12・3円)・草木(4・0円)で年間約千七の持込みを行っています。各ステーションに六十kg入りのバケツを置いて、回収されています。焼却施設は所有せず、生ごみ以外は二十八種類に分別し、リサイクルが出来る物と埋立て処分をされています。生ごみ堆肥は生ごみ1対バーク堆肥4の割合で配合され、よもぎと乳酸菌を混合したエキスを散布して臭気を防ぎ、約五か月間寝かせて堆肥として販売されています。堆肥価格は散でkg当り五円、十五kg袋詰めで三百円、五kg袋詰めで、百

総務文教常任委員会視察研修報告

鹿児島県の大隅半島に位置する鹿屋市に、「やねだん」と呼ばれる電車もバスも通らない小さな集落、柳谷集落があります。そこは、子供から高齢者まで、人口三〇六

円で販売されています。有機栽培についても、自社農場で研究中の事でした。肥効調査等については鹿児島大学に依頼されています。これからの問題点として、高能率化する為にはスパーンが少ないとの事でした。生ごみの水切りが一番なので水切りを十分に行ってもらおう。生ごみの中にはビニール片や金属(スプーン等)が混入しているので、十分注意してもらいたいとの事でした。

二日目は、午前九時より奄美市役所を訪ね、奄美市長の朝山毅氏より、御挨拶と説明を受けました。その後名瀬クリーンセンターを訪れ施設の説明を受けました。二日の研修を通し、本町も今年試験的に実施を始めた「生ごみの堆肥化」の重要性やその方法、また、根本的にごみを減らす取り組みの重要性を再認識した研修でした。



やねだん区長 豊重哲郎氏の講演

人のすべての住民が、安心して暮らす為に必要となる土台作りを、極力、行政に頼る事なく実行している地域です。自主財源を捻出するために、サツマイモ作りからオリジナルの焼酎作りを行ったり、土壌微生物を使って優良な堆肥作り、販売したりと、積極的な活動をされています。また、地域の絆を深める仕組みが盛りだくさんです。地域づくりが一番重要な点は、全員を引っ張るリーダーの存在である、ということが、ここ、やねだんを訪れると分かります。やねだんは、強力なリーダーである区長、豊重哲郎氏が存在なくして成立しなかったでしょう。ヤル気を起こせば、必ず奇跡は起

きるといふ信念と勇気と情熱を持って、住民を引っ張っていく姿には、感動さえ覚えました。情熱で人を動かし、感動で感謝の心を養い、地域を再生させた、その手腕には敬服いたしました。トップが素晴らしいれば組織は変わります。リーダーの情熱が、人を動かすということです。議員ばかりでなく、次回は是非とも町の執行部にも訪問していただきたい、そう思える集落でした。

建設経済常任委員会視察研修報告

平成二十四年十一月八・九日の二日間の行程で、委員四名、林業活性化推進協議会より二名、役場一名の計七名で実施しました。

一日目は、宮崎県日南市北郷総合支所において、飼肥杉、森林セラピーについて説明を受けました。市役所内に正式な課ではないが、十課等の十二人で構成する「飼肥杉課」が設置され、縦割り行政の壁を取り払い日南市を豊にする活動が「飼肥杉」を活用し、取り組まれています。職員から市長への進言で、今日の「飼肥杉課」が出来た様ですが、説明をされる職

員の方から、地域興しの熱い想いが感じられました。

森林セラピーも、年間三万人の体験者が訪れるとの事であり、自然回帰の人々の「健康増進、リラククス」志向の中、観光誘致になり得るものと感じました。

平成十九年度から取り組み、「森の案内人の養成」、「森林セラピー食や癒しの弁当の開発」、「医療検証を取り入れた体験宿泊」など各種のメニューをクリアされてきたとの事でした。また水上村の森林セラピーの取り組みは素晴らしいと絶賛されていました。

二日目、ウッドエナジー協同組合は、バイオマス発電で工場使用電気を自給し、余りは売電もされ、CO₂排出量削減に向け、植樹・育林と工場も環境と人間に優しい経営哲学を感じました。若き社長は、中国への進出も計画中の事で大いなる意欲を強く感じました。

日南市では、多くの市民が参加できれば、まちづくりへの関心も高まり、屋根付木橋のことを学べば、飼肥杉や運河、地域の歴史・文化、特徴も知り、その他景観、観光、林業、協働など多くの可能性を感じた有意義な研修でした。

町の声



上南
上田 貴 祐
たか まさ

後を継ぐことに対して

わが家は、たばこ米を主に、両親と共に作っています。私は高校、大学と実家を離れて生活していたので、農業の事にまるで無知。今年で就農して3年目になります。

就農した当初は、言われた事だけしか出来ず、仕事がキツイと思うこともありましたが、今では、仕事の流れも少しずつ分かり、収穫の喜びで仕事が楽しくなり、また、先輩たちとの交流もあり、楽しみも出てきました。

しかし、まだ覚えることが多く、必死で頑張っています。今は、たばこ生産者は色々な意味で、肩身の狭い思いをしています。安定したたばこ作り、安心・安全なたばこ作りを目指し、一日も早く仕事をまかせてもらえるよう、両親、先輩を見習い、負けないよう頑張りたいです。

その為にも、われわれ若手後継者が、やる気、元気の出る支援と色々な面で、できるかぎりのバックアップをしていただきたいと思います。



岡原永岡
寺田 さ お り

子ども達の輝く未来のために

私には小学校2年生の娘と3才の息子がいます。今子育てと介護の仕事の両立で頑張っています。私と同世代の友達と話をすると、これからの生活のために仕事はしたいのだけれど、子育てしながらの就職はむずかしいということをよく聞きます。私のところの幼い子ども達もよく体調をくずし、急に仕事を休まなければならないこともあり、本当に子育ての大変さと仕事との両立のむずかしさを痛感しています。

あさぎり町にお願いします。例えばお母さんが仕事を終わる時間までの公立保育所の保育時間の延長や親子で遊べる公園の整備などです。駅前公園にも、町で買い物をした時にお母さん同士でちょっとお話し出来るようなスペースを設けたり、喫茶店のような処を作るなど検討して欲しいと思います。公立多良木病院内の病児病後児保育施設の利用についても、まだまだ認知度が低い現状です。

ぜひ若いお母さん達が安心して働ける環境を整えていただきたいです。あさぎり町で子ども達の笑顔がずっと輝けるように。子育てを頑張るお母さん達が安心してイキイキと働ける町でありますように。

編集後記

いつの時代になっても正月はいい。親類と酒を酌み交わし、帰郷した旧友に会い、そして楽しい中にもおごそかに初詣をし、今年一年の家族みんなの幸せを願う。そういう平凡な正月がありがたく感じるの、ここ数年の自然災害や経済不況のせいだろうか。

今年「巳」という字は、蛇が冬眠から這い出す姿を表しているとも言われ「起る、始まる、定まる」の意味があるそう。

今年「あさぎり町誕生十年の年。皆さんに良いことが起こり、十年ひと区切りとして新しいあさぎり町が始まり、歩むべき道が定まる年でありたいものです。

広報委員も今年一年頑張ります。よろしくお願いします。

(永井)

編集・発行責任者

議長 橋爪 和彦

広報調査特別委員会

委員長 皆越 てる子
副委員長 豊永 喜一
委員 永井 英治
委員 森岡 尚人
委員 久保 尚人
委員 加賀山 瑞津子